

みづゑ第八十三號要目

挿 繪

- 早 春(水彩畫原色寫真版)……………故大下藤次郎
 臺灣の町(同)……………石川欽一郎
 カイロ(同)……………三宅克巳
 松江大橋(同)……………藤田紫舟
 スツデオ紹介挿畫(寫真版)……………

本 文

- 水彩畫の今昔……………故大下藤次郎
 寫生用透視畫法(一)……………眞野絶太郎
 日記抄……………故汀 鷗
 ローヤルアカデミーの面々……………山 榊 生
 非人情の記……………矢代幸雄
 スツデオ紹介……………
 パレット評判記(三)……………エス、キタヤマ

寄 書

友へ。横濱展覽會を見る。手前味噌。三越洋畫覽展會の水彩畫。あこがれ記。審査員に望む。素人の繪畫鑑賞と云ふ事。

會告。問に答ふ。讀者の領分。紹介。等

『みづゑ』は故人の愛兒であつた、が慈愛深き親は兒を殘して突然逝つた。『みづゑ』は果して育たう乎——誰も等しく案じた疑念である。けれど『みづゑ』も程なく八ツになる、孤兒は孤兒でも無事に育つた孤兒である。さうして病身でもなければ至つて健に育たうかと思はれる、のみならず尠ならず世の中に同情を持つて居る愛くるしい兒である。將來は母の膝下で、多くの同情者によつて保護を受け父の素志を繼いで人に成らうと云ふ、私は此の健氣な一孤兒の爲にあらゆるものを犠牲にするを容まぬのである。されば孤兒が前身を知るの士は父が生前より、より一層多くの同情を以て此の兒の生育を間接に直接に擁護せられむ事を望むのである……………(S、K)